

データを準備し、管理するには

ハイブリッド環境において、データ品質とマスター・データを
管理するには

A large, stylized IBM logo composed of the letters 'I', 'B', and 'M'. The letters are filled with a gradient of green shades, from dark green to light green, and are arranged in a way that suggests the classic eight horizontal stripes of the IBM logo.

目次

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる	3
• 4 つの柱	3
戦略情報を制御する	5
• 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する	5
データを準備する	7
• 信頼性を保証する	8
データを管理する	9
• 3 種類のデータ・ソース	9
• MDM: 検討すべきユースケース	10
データを監視する	11
データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション	12
次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける	15

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

クラウド・ベースのデータは、業界において競合他社を凌駕できる能力を獲得し、維持しようとする企業にとって、膨大な情報を獲得できる可能性を意味します。しかし、「[情報ガバナンスとクラウドの現状](#)」で説明したように、ほとんどの企業はレガシーのオンプレミス・データと第三者によるクラウド・ベースのデータの突合せを行う課題に直面することになります。ユーザーが重要な意思決定を行うための知見を求めてアクセスするのが、このような「ハイブリッド」環境なのです。

ハイブリッド環境はパブリック・クラウドのソースとオンプレミス・システムからのデータとコンピューティングを統合します。一般的に、綿密な計画を立てなければハイブリッド環境は増大していくため、常に増大を続けるデータ・ストアを管理することがよりいっそう困難になります。

Hadoop のようなスケーラブルなデータ・プラットフォームは、他では得られないコスト・メリットと分析のチャンスをもたらします。しかし、大量のビッグデータの処理に関しては、Hadoop と Hadoop ベースのソリューションにはそれなりのメリットがあるものの、Hadoop そのものは高いデータ品質を実現することはできません。データ品質に問題があると、綿密に計画した分析であってもその効力を発揮できなくなります。さらに、データ品質に関する問題は時間の経過とともに大きくなるため、データ管理の問題によってデータ品質の課題がさらに複雑化します。

しかしながら、この混乱状態を制御する方法があります。他の問題と同様に、まず問題の特性を理解する必要があります。重要なのはデータそのものであり、データのソースとデータを管理するために使用されるシステムの重要性は二の次です。最重要課題としてデータに加えデータから得られる情報の管理に取り組むと、その他の課題はスピーディーに解決します。

4 つの柱

企業がクラウド・ソースから抽出した情報のセキュリティと信頼性を確保したうえで、クラウドによる財務上のメリットを実現するにはどうすればいいのでしょうか。

その答えはガバナンスにあります。

ハイブリッド情報を適切に制御するには、IT 部門と ビジネス部門は以下の 4 つの重要施策を実施する必要があります。

1. **情報の意味に関して広範な合意があること**
(ビジネス部門が必要とする情報に関する共通のポリシーとわかりやすいルールおよび情報の処理方法に関するメタデータを含む)。
2. **保有する情報資産の準備・保守・監視に関して明確な合意があること** (オンプレミス・システムでデータを管理するためのオペレーショナル・データの品質に関するルールなど)。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱
-

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する
-

データを準備する

- 信頼性を保証する
-

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
 - MDM: 検討すべきユースケース
-

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

3. **戦略的な情報資産のセキュア化と保護のための全社的なプラクティスと部門別のプラクティスを実施すること** (役割ごとの情報へのアクセス・ルールの規定、情報の共有と第三者からの機密情報の保護に関するルールの作成など)。
4. **全社的なデータ統合戦略を実施すること** (ライフサイクルの管理、データの流れと戦略情報への加工の明文化、継続的な情報の管理に関する計画など)。

このようなコンポーネントは、ハイブリッド環境における情報ガバナンスの基盤となります。いずれの場合も、施策を成功に導くには、プロセスに関する要因、組織的な要因、技術的な要因を組み合わせる必要があります。このような柱を設定できれば、企業はスピーディーに自信を持って柔軟にプロジェクトを進めることができます。

この e-book では、2 つ目の柱であるデータを準備し、管理することについて主に説明します。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

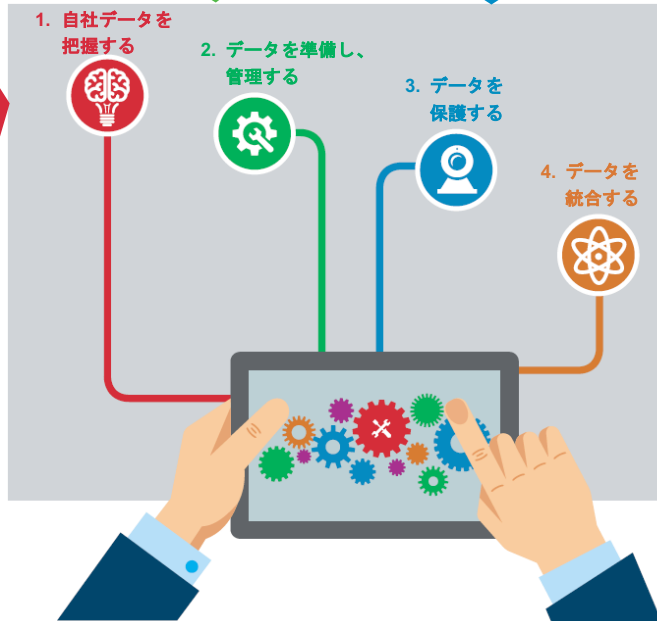
データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

- 不適切な情報の混在を回避する: 自動的なデータ比較手法を使用することで、情報の完全性と精度を実現する
- 部門ごとのデータ・サイロと全社レベルのデータ管理のバランスを取ることで、すべての潜在的なソースからの関連データを連携させる
- オンデマンドで認証されたユーザーにデータを提供する
- 重要なデータのマスター・データを作成することで、よくあるデータ・エラーを是正し、単一の正確なデータを提供する

- 機密データ (オンライン・データとオフライン・データを含む) が存在する場所と当該データが関連する内容について認識する
- 第三者がクラウド上で保存・管理・処理する社内データを監視する
- 開発環境、テスト環境、品質保証環境のデータを保護し、クラウド・システム、オンプレミス・システム、アプリケーション、その他のリポジトリを通じて継続的にデータのトラッキングを行う
- セキュリティー制御を一元管理し、オンプレミス、仮想環境、クラウドで発生する疑わしい挙動に対して警告を自動化する

- すべてのユーザーが同じ情報を参照できるよう、一貫性のある方法で用語を定義する
- ビジネス・コンテキストを提供することで、データ統合を促進する
- メタデータ戦略を構築することで、データの形式やコンテキストなどに関する情報を集約する
- データ・リネージュをオリジナルのソースまでトラッキングする



- あらゆる種類のデータ統合手法 (ETL、レプリケーション、仮想化など) に対応することにより、データを情報に変える
- インプットからアウトプットまでのさまざまなプロセスを通じてデータを処理し、効率を最大化する
- データの一括移行とバッチ移行に加え、リアルタイムのレプリケーションと処理のために、高いパフォーマンスとスケラビリティを実現する
- データのフィード先、出力先、データの保守期間、データのライフサイクルの終了のタイミングを認識し、管理する

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

戦略情報を制御する

ハイブリッド環境を採用したからといって、IT 戦略が完全に実現したわけではありません。実際には、クラウド環境の要素はビジネスの優先課題に合わせて迅速に進化します。しかし、クラウド・ベースのソースからのデータの比率が小さくても、IT 部門はデータの統合とセキュリティに関する計画を持つ必要があります。IT 部門は、データがどこに存在する場合でも、企業があらゆるデータとデータの処理によって生まれる情報を「制御」できるよう支援しなければなりません。

ハイブリッド・インフラと分散コンピューティングは、戦略的な情報資産を構築するという最終目標を達成する手段となります。この基本的なコンセプトを採用すると、IT 部門が対応すべきことが明確になり、さらに重要なことに、IT 部門がより効果的にビジネス・ユーザーと連携するにはどう

すべきかがはっきりとします。

品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

戦略的な資産を構築するには、企業はまず情報のサプライ・チェーンを管理し、その後統合と分析を行うことにより、ビジネス上の意思決定を行う必要があります (図 1 を参照)。従来のサプライ・チェーンとは異なり、情報のサプライ・チェーンは多対多のリレーションシップを持っています。例えば、同じ人に関するデータが多くのロケーションから提供されることがあります。この人はお客様であり、従業員であり、パートナーであるかもしれません。この情報は多くのレポートやアプリケーションに提供され、さまざまなシステムが同じ情報を違う方法で定義する場合があります。

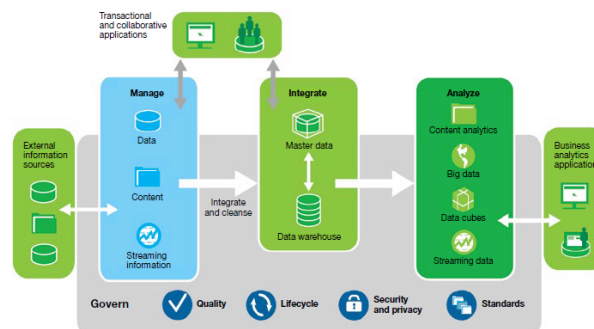


図 1. ガバナンスは情報のサプライ・チェーンの品質・可用性・一貫性を高めます。

はじめに: **新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる**

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- [品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する](#)

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

このような複雑な状況を考えると、情報を統合し、情報の品質を保証し、マスター・レコードを管理することは非常に重要なタスクとなります。ライフサイクル全体を通じて情報の品質を維持するには、情報を信頼性の高い資産へと変え、制御する必要があります。情報の容量が爆発的に増大しても、基盤となるシステムはコスト効率が高く、保守が簡単で、ワークロードの処理パフォーマンスが高くなければなりません。

効果的な情報ガバナンスを実施すると、組織間のコラボレーションと体系的なポリシーの作成を促進することで、データの品質・可用性・一貫性を高めることができます。ガバナンスは部門ごとのサイロと全社的な管理のバランスを取ることで、売上の増大、コストの削減、リスクの緩和、信頼性の改善といった、あらゆる企業にとって不可欠の要因に影響を及ぼします。高いデータ品質を実現するには、以下の基本的な属性が必要です。

- **完全性:** あらゆる可能性のあるソースからのすべての関連データを関連付ける必要があります。
- **正確性:** スペルミスや略語などのよくある問題を修正したうえで、データの正確性と一貫性を保つ必要があります。
- **可用性・適時性:** データの管理と保存のために商用プラットフォームとオープン・ソースのプラットフォームのどちらを使用する場合でも、データはオンデマンドで提供できなければなりません。

このようなデータ属性の準備・管理・監視を行う機能は、ハイブリッド環境では不可欠なものとなっています。

情報の収集と分析の作業の妨げとなるのは何なのか?

- 情報主導型ソリューションの導入や情報アクセスを高めるためのシステムの調整の妨げになるものとして、いくつかの技術的要因と業務上の要因があります。
- データのバージョンが複数存在すると、企業は効果的に情報に関する規制を遵守できず、顧客・製品・アカウント・ロケーションに関する単一のビューを実現することもできません。
- きちんと制御されないデータベースやアプリケーションが複数存在すると、一貫性と正確性を維持することが困難になります。
- 情報の過多が発生すると、作業やシステムがデータの優先順位を設定し、データを差別化することができなくなります。
- データそのものに関するデータを提供するメタデータが存在しないと、IT 部門とビジネス部門は情報と用語に関する特定の意味や使用目的に基づいてコラボレーションすることができません。
- 複数のソースからのデータを効率的に標準化・マージ・修正できないと、データを信頼性が下がり、不正確な情報に対する不信感が生まれ、新規のビジネス・アプリケーションの導入が遅れます。
- 特定のアプリケーションとプロセスと緊密に関連する情報が原因となって柔軟性と俊敏性で問題が発生すると、システムの追加、更新、提供終了を行う際に、IT アーキテクチャーのスムーズな発展が実現できなくなります。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データを準備する

企業は、クラウド経由で利用可能なさまざまな種類と内容のデータ・ソースを活用したいと考えています。しかし、企業の IT 部門がクラウド・ベースのデータの活用を経験がない場合、当然のことながらデータの信頼性が疑わしくなります。

自社の情報に自信を持ち、その状態を維持するためには、持続可能性を持ち俊敏で制御可能な全社的な情報アーキテクチャーが必要です。どこでもいつでもどのような方法でも、あらゆるビジネス要件に対応する信頼性の高い情報を提供できる機能が必要です。このためには、以下を実現する包括的な情報統合ソリューションが必要となります。

- **関連するアプリケーション、データ、コンテンツにアクセスし**、ソースにおけるデータ (構造化データ、非構造化データ、メインフレームのデータ、分散システムのデータ、社内外のデータを含む) の変更を認識し、対応する
- **情報の構造とコンテンツの発見・モデリング・制御を行う**

- **情報の標準化・マージ・修正を行うことで**、ビジネス情報とそのリレーションシップに関して、一貫性があり正式かつ完全なビューを提供する
- **効果的かつ効率的に**、新たな使用目的のために大量のデータの**収集・統合・再構成を行う**
- **情報の同期・仮想化・移動を行うことで**、情報のインライン・デリバリーを実現する
- サービス指向アーキテクチャー (SOA) モデルを通じて、**再利用可能な情報サービスを柔軟に提供し、管理する**

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データとデータに基づくアナリティクスの信頼性を実現するには、ハイブリッド環境で使用するあらゆるデータのクレンジングを行うことが重要です。このプロセスには 2 つのステップがあります。調査のステップでは報の構造とコンテンツの発見と制御を行い、調査後のステップでは適切な情報の標準化・マッチング・永続化を行います。この 2 つのステップにより、データ・ストアから重複データとエラーが発生したデータを排除できます

信頼性を保証する

データの信頼性を高めるには、社内外のさまざまなソースから始まってシステムを経由して最終的なレポートやデータ・リポジトリに至るまで、データをトラッキングできる必要があります。これにより、データがどこから提供され、どのように処理されたのか確認することができます。

このレベルのデータの透明性を実現できるガバナンス・ソリューションを導入する必要があります。しかし、データ品質を高くするには、データ管理者がデータ品質をテストできる情報分析機能も必須です。

例えば、データ管理者は単純な null 値のチェックを行うだけで、分析対象のすべてのフィールドとテーブルに実際にデータが含まれていることを確認できます。別の例では、先進的なアルゴリズムに基づいてデータを処理することで、データの有効性を検証できます。この情報は特にダッシュボードのビューで役立つため、ビジネス・アナリストはデータ品質に関する問題があるのか迅速に確認のうえ、簡単に詳細データにアクセスできます。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データを管理する

信頼性の高いデータを準備した後、管理を行わなければなりません。ここで検討すべきなのが、マスター・データ管理 (MDM) のシステムです。従来、このようなシステムは信頼性の高い内部データを対象としていました。これは非常に有益であるものの、ハイブリッド・データ環境では MDM に関する従来の見方を変えて、クラウド・ベースの外部データのソースも取り込む必要があります。

MDM ソリューションは顧客・製品、その他の領域に関する最も完全な情報を提供することで、業務と分析における意思決定を改善することを目的としています。この結果、「単一の正確なデータ・ソース」が生まれます。MDM は オンプレミスのソースとクラウドのソースからのデータとアプリケーションを取り込むことで、ハイブリッド・データ環境におけるこの目標をさらに拡張します。

3 種類のデータ・ソース

このハイブリッド環境で MDM を検討する場合、データのソースを決定する必要があります。通常、ソースは以下の 3 種類に分類できます。

1. **内部データ:** これは従来からある「ファイアウォールの内側」のデータのことです。通常このデータは加工とクレンジングを行った後、仮想環境または物理環境の MDM ハブで管理されます。

2. **信頼性の高い外部データ:** これは単一のビューに含めたい情報であるものの、現状のまま一切変更を加えずに使用しなければなりません。このデータ・タイプの例として挙げられるのが、Dun & Bradstreet のデータです。しかし、外部データを正確に準備することにより、このデータが適切な形式を持ち、完全性と正確性の分析が完了し、内部データとともに分析ソフトウェアで取り込むことができることを保証することができます。
3. **信頼性の低い外部データ:** このようなデータは通常品質が低く、広範に使用するには問題があります。価値はあるかもしれないものの、上記の 2 種類のデータと同様に処理することはできません。ソーシャル・メディアのデータは信頼性の低い外部データの一例です。別の例としては数百件の氏名と住所を含む見込み客のリストがあり、このようなデータは企業のカスタマー・リレーションシップ・マネジメント (CRM) システムの信頼性を下げる可能性があります。しかし、このデータを活用することで、世帯に含まれるある人が企業のアカウントを既に保有しているかどうかを確認することができます。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱
-

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する
-

データを準備する

- 信頼性を保証する
-

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
 - [MDM: 検討すべきユースケース](#)
-

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データ分析イニシアチブの過半数がカスタマー・エクスペリエンスの改善に取り組んでいると想定すると、以下のために信頼性の劣るクラウド・ベースのデータ・ソースを活用することは妥当であると言えます。

- ソーシャル・メディアからの知見を追加することで、顧客に関する 360 度のビューを改善する
- 文書や非構造化テキストからの知見に基づき、その他の関連性を発見する
- Web とソーシャル・メディアのフィードバックを活用して、従来の製品情報に動的に導き出した製品の特徴を追加する

MDM: 検討すべきユースケース

ホテルが提供する特典プログラム

MDM は非構造化コンテンツを通じてマスター・データを強化することで、顧客に関する包括的なビューをさらに改善することができます。例えば、Facebook のデータを活用すると、ホテル・チェーンは出張客のほとんどが子供の人数が多すぎるため特典プログラムで提供される標準の部屋には泊まることできないことがわかります。このホテルは得意客に対して特典プログラムとしてより大

きなサイズのスイートを提供することでこの状況に対応し、顧客のロイヤルティをさらに高めることができます。

SaaS アプリケーション

ほとんどの CRM システムの場合と同様に、Salesforce.com のユーザーも重複アカウントの数を減らすことに苦勞することがよくあります。ハイブリッド・データ環境では、MDM をアカウント作成プロセスの一部として使用すると、この問題を緩和できることがあります。ユーザーが新規アカウントを作成したい場合、MDM システムが作成済みのアカウントをリアルタイムで検索すると、マッチする可能性のあるアカウントを検出できます。この結果、Software-as-a-Service (SaaS) ベースの CRM アプリケーションに含まれる重複アカウントの件数を大幅に削減できます。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データを監視する

ハイブリッド環境でデータの準備と管理を行うために時間とリソースを費やした後は、データが継続的に信頼性を維持できるよう、継続的な監視が必要になります。通常データ管理者がこの作業を行うものの、このような担当者が企業のデータ資産の価値を高める活動により深く関与するにつれ、このような新たな要件を管理するために役立つ機能が必要になります。

データ管理者がガバナンス上のこのような課題に対応するには、既存のデータ・フローと新たに提供されるデータ・フローと連携するワークフローが必要です。このワークフローは明確に規定される必要があります、場合によって自動化されることもあります。この機能を活用すると、データ管理者はデータの意味と価値を理解し、さまざまなデータ・ソースとデータ・タイプの観点からデータを評価し、例外データを処理できるようになります。

適切な監視システムが提供する事前に設定されカスタマイズ可能なデータ・ルールにより、バッチ・データとリアルタイム・データのストリーミングに対応するため、動的に例外データを収集し、アラートを発行することができます。この環境を実現するには、データ管理者が一目でデータの健全性を監視し、問題となる領域にドリルダウンし、例外データを修正できるよう、システムは可視化

ツールを提供する必要があります。オンプレミス・データを修正する場合は、適切に変更の収集とログ管理を行う限り、直接修正すれば済みます。クラウド・ベースの外部データの場合、データを修正する場合は、データの問題による影響を確認するために社内で調整し、データ・ソースでデータに関する問題に対応するために外部のデータ提供企業と調整する必要があります。

データ管理者の能力を高める

現代のデータ管理者は、以下をはじめとするさまざまなケースに対応しなければなりません。

- 複数のビジネス部門とコラボレーションすることにより、規制要件に対応できる情報ポリシーを作成する
 - 質の低いデータがもたらすコストを評価し、データ品質に関する問題を管理・解決する
 - ビジネス・プロセスを通じて特定領域に関する専門家と力を合わせて、全社的な用語集の変更のレビューと承認を行う
-

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱
-

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する
-

データを準備する

- 信頼性を保証する
-

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
 - MDM: 検討すべきユースケース
-

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

IBM® InfoSphere® Information Server for Data Quality は継続的にデータのクレンジングとデータ品質の監視を行う豊富な機能を提供することで、データを信頼性の高い情報に変え、ビジネス上の意思決定に役立つ情報を提供し、ビジネス・プロセスの実行を合理化できます。本ソフトウェアはバッチ・プロセスとリアルタイム・プロセスで包括的かつカスタマイズ可能なデータ・クレンジング機能を提供するため、自社が設定したビジネス・ルールに基づいてソース・データの調査、情報の標準化、およびレコードのマッチングを自動化することができます。

Information Server for Data Quality を導入すると、データ品質プロジェクトのスコップを設定し、データ品質を包括的に把握するためのメトリクスを開発し、わかりやすいダッシュボードを使用してデータの健全性を継続的に監視できます。

Information Server for Data Quality が提供する成果物を通じて、データ・オーナーはデータ品質に関する重要な問題の検出と対応に注力し、信頼性の高いデータを企業に提供できるようになります。

ルールを作成し複数のデータ・ソースでルールを再利用すると、価値創出までのリードタイムを短縮し、より一貫性があり正確なデータを提供することができます。

Information Server for Data Quality を活用すると、企業はマスター・データのエンティティの正確なビューを作成し、管理することができます。開発環境には、一連の柔軟な機能とアイデアをそのまま設計に反映できる直感的なユーザー・インターフェースが含まれます。本ソフトウェアは確率に基づくアルゴリズムを使用してデータのマッチングを行うことで、企業のプロセスを稼働させるために必要な情報の正確性と信頼性を高めます。スケーラブルな超並列処理を実行するプラットフォーム上でグローバルのデータを処理することで、処理要件の厳しい環境でもパフォーマンスを最適化することができます。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱
-

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する
-

データを準備する

- 信頼性を保証する
-

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
 - MDM: 検討すべきユースケース
-

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

データ品質の管理と保守を行うには、いくつかの
コア機能を活用できます。

- **調査:** 異常データの特性と範囲を把握したうえで、より効果的なクレンジングとマッチングを行います。
- **標準化:** 顧客、パートナー、製品のデータに関する標準化されたビューを作成します。この機能は、ジオコーディングによるグローバルの住所のクレンジング、検証、認証 (特定の地域における郵便料金の大幅なディスカウントのため)、データの精緻化にも対応します。
- **確率によるマッチング:** 業界トップレベルのマッチング・エンジンを提供することで、最適なマッチング結果を提供します。本機能は高いコネクティビティとスケーラビリティを実現するプラットフォーム上で稼働します。
- **永続化:** データ統合の最適化、レコードに関する世帯ごとの情報や関連情報のビューを実現し、顧客、パートナー、製品などに関する正確な統合ビューを提供します。

IBM InfoSphere Master Data Management (InfoSphere MDM) による実績のある完全かつ柔軟な MDM ソリューションは、信頼性の高いビューを構築することで、ビジネス・プロセス、ハイブリッド・データ、アナリティクスを改善します。InfoSphere プラットフォームに含まれる本製品は、あらゆる領域、アーキテクチャー形式、業種別ユースケースに対応し、事前に設定されたカスタマイズ可能なデータ・モデルとビジネス・サービスを通じて迅速な価値創出を実現します。InfoSphere MDM はデータ・アナリティクス・ツールを補完し、企業が信頼性の高い情報を提供することで、売上を伸ばし、顧客の満足度を高め、顧客を定着させ、業務を改善し、コンプライアンスを促進できる環境を実現します。

IBM Stewardship Center は InfoSphere Information Server と InfoSphere MDM の両方と連携することで、コラボレーションを促進する単一のビジネス環境を提供します。その結果、ビジネス・ユーザーは情報ガバナンス・ポリシーに基づいてコンプライアンスの定義と監視を行い、データ品質の問題の管理と解決を行うことができます。

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

IBM Stewardship Center は、ガバナンスを実施する企業のユーザーのニーズに対応する以下の機能を提供します。

- データ・ガバナンスとデータ品質のアクティビティをサポートするワークフローとルール
- アクティビティと進捗を監視するダッシュボード
- 統合されたソーシャル・コラボレーション・ツール
- ブラウザー・ベースのカスタマイズ可能なインターフェース
- データ品質に関する問題の管理と解決を目的として、独自のビジネス・プロセス・マネジメント・ワークフローの設計のために使用できる Stewardship Center Application Toolkit

Data Quality Exception Console は、IBM InfoSphere Information Server 内のデータ統合とデータ品質のアクティビティから収集したデー

タ品質に関する問題について統合ビューを提供します。データ品質ポリシーのアプリケーションを監視することで、このような問題の解決に取り組むことができます。

Data Quality Exception Console を使用すると、以下のタスクを実行できます。

- InfoSphere Information Analyzer、InfoSphere DataStage®、および InfoSphere QualityStage® が提供する例外データを参照することができる
- 例外データ・セットを除外できる
- 詳細情報をドリルダウンすることで、含まれる例外データ・セットと例外レコードの詳細を確認することができる
- 例外データ・セットの優先順位を設定する
- IBM Stewardship Center 内で管理する例外データ・セットを送信する

はじめに: 新たな標準環境ではガバナンスが不可欠な要素となる

- 4 つの柱

戦略情報を制御する

- 品質の管理: 情報のサプライ・チェーンを管理する

データを準備する

- 信頼性を保証する

データを管理する

- 3 種類のデータ・ソース
- MDM: 検討すべきユースケース

データを監視する

データの準備・管理・監視を行う IBM ソリューション

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

次のステップ: クラウド・ガバナンスの検討をさらに続ける

クラウド・ベースのデータ・サービスと処理サービスはビジネス・ユーザーにとって必須のビジネス・チャンスをもたらし、IT 部門は社内のオンプレミスのトランザクション・システムとレポート・システムの一貫性を管理する役割を負います。ハイブリッド環境のためのガバナンス・ポリシーの作成は、将来時点で検討すべきことではありません。

今すぐに検討する必要があります。

この e-book では、ハイブリッド環境におけるデータの準備・保守・監視の役割について解説します。ハイブリッド環境における情報ガバナンスのその他の柱について確認するには、本シリーズに含まれる以下の e-book をダウンロードしてください。

- [情報ガバナンスとクラウドの現状](#)
- [自社のデータを把握するには](#)
- [クラウドとオンプレミスのデータを保護するには](#)
- [ハイブリッド環境のためにデータ統合とライフサイクル管理の戦略を開発するには](#)

IBM によるガバナンスのソートリーダーシップと関連テクノロジーに関する詳細情報が必要な場合は、ibm.com/analytics/us/en/technology/agile/ にアクセスしてください。

IBM グローバル・ファイナンスはさまざまな支払いオプションを提供することにより、お客様がビジネスを成長させるために必要なテクノロジーの取得をサポートします。IBM は、IT 製品と IT サービスの取得から廃棄に至るまでのライフサイクル全体の管理を提供します。より詳細な情報は、ibm.com/financing で確認いただけます。



© Copyright IBM Corporation 2016

日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェア・グループ

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

Produced in Japan
2016 年 9 月

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、DataStage、InfoSphere、および Quality Stage は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なわけではありません。

本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は自己の責任で関連法規を遵守しなければならないものとします。IBM は法律上の助言を提供することはいたしません。また、IBM のサービスまたは製品が、お客様がいかなる法規も遵守されていることの裏付けとなると表明するものでも、保証するものでもありません。



Please Recycle